

盆地を離れて、また盆地



淀 大祐 (よど だいすけ)

1990年生まれ 京都府育ち。島根大学 生物資源科学部を卒業後、47都道府県を自転車で旅する。奈良県や大阪府、京都府など拠点を移し、2019年12月フードプロデューサーとして、上川町の地域おこし協力隊に着任。

上川町に引っ越して2年目、それも12月になると早くも3年目に入ります。以前は実家がある、京都府北部の福知山市に住んでいました。上川町も福知山市も山に囲まれていて、どことなく雰囲気似ているように感じます。どうにも私は山が近くにないと落ち着かないようです。

上川町では、主にKAMIKAWORK（地域おこし協力隊）のフードプロデューサーとして、上川町の東雲地区にある、「大雪かみかわ ヌクモ」という公共施設内のカフェにて、ベーグルを作ったり、コーヒーの焙煎ばいせんをしたりしています。ヌクモでのカフェ業務の他には、同じく上川町の地域おこし協力隊の数名と一緒に「道北TV」というYouTubeチャンネルを開設し、上川町のモノ・コト・ヒトについて発信しています。現在は移住・定住をテーマにした『かみかわに住んだら』という番組を主軸に行っています。

【協力隊に応募した経緯】

森林生態学、特にニホンジカについて研究するために、島根大学へ入学しました。入学当初の思いとしては、大学卒業後は、茨城県つくば市にある森林総合研究所で働くために、大学院に進み、博士号を取得するつもりでした。しかし、サイクリング部に入部したことをきっかけに、自転車旅の面白さに目覚め、どんどん学問が疎かになっていきました。

大学卒業も近づいてきた3回生の冬、大学院に進むことを諦め、周りのみんながやっているというのもあり、進路を就職に切り替えました。ただ、残念なことに4回生の夏を迎えても、全く内定がいただけませんでした。そのタイミングで、今の自分が本当にやりたいことは何か考えた時に、真っ先に浮かんだのが、自転車旅です。「まだ行ったことのない都道府県も行ってみたい!」という思いから、大学を卒業してすぐに47都道府県を巡る旅に出ました。各都道府県を旅した結果、どの地域も面白かったのですが、漠然と「北海道に住みたい」という思いが生まれていました。

自転車旅を終え、関西に戻ったあとも、何度か北海道にも訪れました。その中で、当時札幌市に住んでいた、絹張 龍平（現上川町地域おこし協力隊）と出会います。彼自身もすごく興味深い人物なのですが、彼の繋がりつなりで出会う人が皆、面白い方ばかりでした。

2019年4月、上川町が地域おこし協力隊制度の導入を開始し、絹張 龍平を含めた面白い方たちがこぞって上川町に移住する、その報せを聞いた私は、自分もすぐに上川町へ行きたい!と思ったのですが、その時は状況が合わず断念しました。その後も、ずっと上川町へ移った彼らの活動を「なんで自分はそこにいないんだろう。自分も彼らと面白いことがやりたい!」という思いで眺めていました。同年10月頃、ようやく自分の状況も整ったので協力隊の募集に応募し、12月に着任となりました。

【協力隊としての活動と個人の動き】

冒頭でも書きましたが、私はKAMIKAWORKのフードプロデューサーとして活動しています。KAMIKAWORKにはフードプロデューサーの他に、「アウトドアプロデューサー」「コミュニティプロデューサー」「クラフトプロデューサー」「クリエイティブプロデューサー」という部門があります。プロデューサーごとに独自の活動もあるのですが、各プロデューサーの垣根を越えて、一緒に活動することも多々あります。私の話で例を挙げると、上川町にある上川高等学校の授業で自転車に乗って上川町（時には隣町）を走るものがあるのですが、これはコミュニティプロデューサーと一緒にコース案を考えたり、高校生の先導役をしたりしています。また、クリエイティブプロデューサーが主体となって、上川町のPR動画を作成したこともあります。フードプロデューサーならヌクモのカフェ、アウトドアプロデューサーなら層雲峡オートキャンプ場がメインの活動拠点になるなど、ある程度の制約はありますが、上川町の協力隊は比較的自由に活動できています。

2021年10月現在、上川町の地域おこし協力隊は全部門の人数を合わせると、13人です。協力隊制度の導入直後は5人だったことを考えると、かなり大所帯となりました。人数が増えると、個々の能力を組み合わせることによって出来ることも増えて毎日楽しいです。それと同時にコミュニケーション不足による誤解が生じて、問題になることもあります。各々が個人で行っ

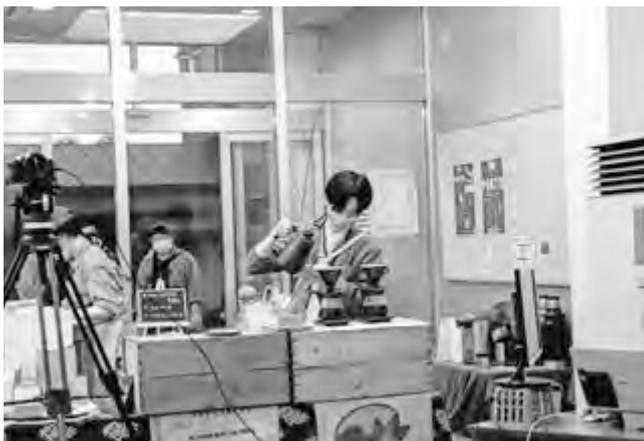
ている活動が把握しづらくなり、気づいた頃には「え？ そんなことやってたの？ それ協力できたのに...早く言ってよ...」みたいなことも起きました。コロナ禍の影響も多分にあります。最近、ようやく全体会議も行うことができるようになり、この問題も解消されました。

【今後の活動予定と広がる繋がり】

地域おこし協力隊の任期は、最大で3年間と定められています。私は現在2年目、間もなく3年目に入ります。

フードプロデューサーは、主に飲食に関わる起業を目指す人が対象となっています。私も漠然と喫茶店を開きたいという思いから、フードプロデューサーに応募しました。しかし、新型コロナのこともあり、本当にここで自分のお店ができるのか、この先も上川町にいられるのかすごく不安でした。その思いを、前述した絹張 龍平に素直に話すと「じゃあ、一緒にコーヒーの焙煎士やってよ」と飄々とした表情で言ってくれました。ということで、協力隊卒業後は彼が開くコーヒー屋さんの一員として働く予定です。

また、絹張 龍平の他、2名が立ち上げた会社の事業である、アウトドアウエディングや地域交流&コワーキングスペースの運営のお手伝いを積極的に行っています。上川町に来るきっかけとなった友人たちと一緒に働ける未来、すごく楽しみです。



仕事風景



上川町の風景